

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		令和5年度 第1回 川西市総合計画審議会	
事務局(担当課)		企画財政部政策創造課	
開催日時		令和5年6月28日(水) 午後6時から	
開催場所		川西市役所4階 庁議室	
出席者	委員	上村 敏之、片山 優子、神谷 牧人、澁谷 和正、 新川 達郎、西中 哲郎、松浦 龍基、山本 利映 (敬称略)	
	その他		
	事務局	越田市長、作田企画財政部長、飯田企画財政部副部長、 稲治政策創造課長 他課員2名	
傍聴の可否		可	傍聴者数
		9名	
傍聴不可・一部不可の場合、その理由			
会議次第		次ページに記載	
会議結果		審議経過のとおり	

令和5年度 第1回川西市総合計画審議会 次第

日時：令和5年6月28日(水)
午後6時～

1. 開会

2. 議事

- (1) 第6次川西市総合計画 基本構想原案について 【資料1】
- (2) 第6次川西市総合計画 基本計画原案について 【資料2】

3. その他

- (1) 今後のスケジュール

【参考資料】

- ・基本計画冊子イメージ

審 議 経 過

1. 開会

●新川会長（以下、会長）

令和5年度第1回川西市総合計画審議会を開会します。なお、本日は伊藤委員、水野委員がご欠席です。また、令和3年度第1回審議会から熱心にご議論いただいていた中野委員に替わり、新たに能勢電鉄株式会社取締役社長に就任された西中委員にご参加いただいていますので、最初に一言ご挨拶をお願いします。

●西中委員

能勢電鉄株式会社の西中です。会長からお話があった通り、答申時期に近づいているところからの出席ですが、一生懸命参加したいと思います。どうぞよろしくお願いします。

●会長

ありがとうございます。開会にあたり、越田市長からご挨拶をお願いします。

●越田市長（以下、市長）

新川会長をはじめ、委員の皆様におかれましては、総合計画の策定に向けて本当に長い時間にわたりご協力いただきしており、心からお礼を申し上げます。通常の審議会であれば、市長は最初に挨拶した後退席するところ、初回で神谷委員から「総合計画という大きな計画の方向性を示すには、まず『市長がどういうまちづくりをしたいのか』がないと、前に進まないのでは」というご提案をいただきました。そこから毎回私の考えをお聞きいただき、ブラッシュアップを重ね、ようやく、具体的な事務局案がお示しできるようになったと考えています。

ただ、「成果指標」を定めるところなどには、まだ悩みを抱えています。どうしても、行政は積み上げてきたものを元に目標を掲げる、という傾向があります。ですので、今日お示しするものをたたき台として、「めざす都市像」に基づいた体系となっているのか、という視点も含めて、忌憚ないご意見をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

●会長

ありがとうございました。今お話があったように、これからの川西市の未来について、皆様からのアイデアでよりよいものにつくり上げていければと思います。よろしくお願いします。

2. 議事

●会長

議事の一点目「第6次川西市総合計画基本構想原案」について、事務局より説明をお願いします。

●事務局

- ・【資料1】 第6次川西市総合計画 基本構想原案について

(1ページ) 導入部分

総合計画のシンプルな説明とともに、家族のイラストや手書き文字を添え、読み進めてみようと思える雰囲気を意識し構成しました。

(2・3ページ) かわにし暮らしって、心地よい。

川西市の魅力、特徴（主にソフト面）を紹介。普段の暮らしで感じる心地よさをイラスト中心で表現することで、都市像のキーワードでもある「心地よさ」を直感的に伝えようと試みています。

(4・5ページ) かわにしてこんなところ

川西の魅力、特徴（主に地域資源）を紹介。利便性の良さと豊かな自然に恵まれた環境を活かし、住宅都市として発展してきた川西の特徴を示しています。

(6・7ページ) 心地よさ 息づくまち 川西 ～ジブンイロ叶う未来へ～

「めざす都市像」の作成プロセスについてご説明します。計画を策定するにあたり、これまで市民が参加できる対話や議論の場を設け、さまざまな年齢、立場の方からご意見をいただきました。

(参考) 市民参画型の取組み例

市長と語る かわにしMeeting	令和4年の6・7月に市内14地区で実施。延べ263名の市民が参加し、市民と市長が対話する形で、まちのありたい姿をみんなで共有した。
かわにしミライ 会議	令和5年1～3月に3回実施。ありたいまちの姿の実現のための方策を、参加者同士が話し合う場。2,000名の市民に無作為抽出で招待状を送り、延べ309名の参加があった。
my grooveかわ にし	対面の場に足を運べない方にも発言いただけるよう、オンライン意見収集プラットフォーム「my grooveかわにし」を令和5年1月に設置。「かわにしMeeting」や「かわにしミライ会議」の速報などを発信し、意見投稿のほか、誰かの意見に「いいね」や返信ができる仕様とした。

寄せられた意見には、川西は観光客で賑わうようなまちとは異なり、何気ない日々を過ごす中で、自然がそばに感じられ、大都市への利便性も備えているそのバランスの良さに魅力があるという声が多くありました。当審議会でも、これらを基礎資料として「川西のまちづくりで大切にすべきことは何か」を数回にわたってご議論いただきました。そこでのご意見も踏まえ、市職員からの提案をまとめた結果、「日々の暮らしで感じられる心地よさを川西の魅力や強みと捉え、その心地よさが途切れることなく次世代まで受け継がれるよう、川西に関わるあらゆる人が協力して取り組むことが大切である」との思いを込めて、めざす都市像を「心地よさ 息づくまち 川西」としました。

また、心地よさを形づくる要素の1つとして、一人ひとりが自分らしさを大切にでき、ま

た、それをほかの人と認め合えるような風土も重要と考えました。川西がそんな「ジブンイロ」の幸せを叶えられるまちでありたいという思いから、「～ジブンイロ叶う未来へ～」をサブタイトルに位置付けています。

(10・11ページ) 「私たちが大切にしたい思い - 4つの基本姿勢 -」

都市像の実現に向けて、市民や地域事業者、市を含めた「みんな」で大切にしたい考え方を「4つの基本姿勢」として示しております。

(12～15ページ) かわにしのミライを支える5つの柱 - 分野別の目標 -

めざす都市像を、市の行政分野とリンクさせる形で5つの分野に整理したものです。

前回の審議会で、各目標のタイトルを掲げるだけでは、具体的な施策とのつながりが見えづらいとのご指摘をいただきました。そこで、5つの分野別目標がそれぞれどのようなまちをめざし、取り組んでいくのかという説明を加えています。

(16・17) 都市デザイン

ここについては、別途策定を進めている「川西市都市計画マスタープラン」からの引用を検討しており、現段階ではテキスト・イラストともに仮案です。

(18・19ページ) 総合計画体系図

めざす都市像・4つの基本姿勢・5つの柱（分野別の目標）などを整理した図です。特に、「4つの基本姿勢」の1つ【まず、「子どもの幸せ」から始めます。】について、本市のまちづくりの重要な姿勢であることが伝わるよう、子どものイラストを沿えました。

なお、本資料のイラストは、川西市出身のイラストレーターである寺田マユミ氏に作成いただきました。

説明は以上です。

●会長

ありがとうございました。イラスト等も綺麗に入って本当に読みやすくなりつつあるなと思います。

●神谷委員

見やすいし、やわらかい雰囲気川西の雰囲気にとても合っているなと思います。

気になるところが2点。1つは、最初の家族イラストについて少しトラディショナルな印象を受けました。今の時代背景を考えると、違和感を感じる人がいるのではないかと思います。

もう1つは、「私たちが大切にしたい思い - 4つの基本姿勢 -」のデザイン。続く「まちのミライを支える5つの柱」と見比べたとき、数字の違いが分かりにくいと感じました。

●会長

ご意見いただいたように、「4つの基本姿勢」に至るまでのまちづくりの考え方や、そこから先の関係性が少しわかりにくいかもしれません。

また、家族のイラストですが、今、LGBTQ+も含め新しい人の在り方について議論のある時代ですから、その未来は、もっと一人ひとりが尊重されている社会になっているはずで、それを踏まえて、ここの表現はもう少し工夫の余地があるかもしれません。

●澁谷委員

今回の資料はイラストが入っていて、子どもにも見やすく、親しみのある計画になっているのではないかと思います。

気になった点は、家族のイラストに載っている「最初のほうだけでも読んでみて」という言葉。わざわざ書く必要があるのか、正直疑問に思いました。

また「かわにしの暮らして、心地よい。」のイラストについて、そこに住んでいる人以外が見ても、川西の良さがもっと具体的に伝えられる工夫があってもいいのではと思います。

最後に「かわにしてこんなところ。」ファミリー層の転入超過”という情報は、「かわにしの暮らして、心地よい。」で取り扱ったほうがわかりやすいかと思いました。このページは全体的に文字数が多いので、見やすい工夫がほしいです。

●会長

「最初のほうだけでも読んでみて」というメッセージは、試みとしてはよく分かりますが、難しいところですね。

「かわにしの暮らして、心地よい。」では、イラストで川西の良さを上手に表していただいています。川西市を知らない人が見ても分かるように、補足の説明あるいは固有名詞も少し入ってもいいのかもしれません。

次の「かわにしてこんなところ」では、逆に地域資源の情報が詰まっっていて、他と比べると読みにくくなっています。提供すべき情報量も大切ですが、見せ方の工夫はもう少しあってもいいかと思いました。ファミリー層の転入については、どういう場所で示すのが一番いいのか、悩ましいですね。

●山本委員

「最初のほうだけでも読んでみて」は、個人的にはあってもいいかなと思いました。全体的にやわらかい感じがしてわかりやすいのですが、文字が小さい気がするので、その辺は少し工夫していただければ。

最初の絵に関しては、川西市は、同性パートナーシップ制度や手話言語条例など、人のあり方について先進的なイメージを持っていますが、このイラストについては神谷委員が仰るようにステレオタイプだなという印象です。

また、「私たちが大切にしたい思い - 4つの基本姿勢 -」と次の「まちのミライを支える5つの柱」の見せ方ですが、例えば片方をローマ数字、もう一方をアラビア数字に置き換えてはどうかと思いました。

最後に、「心地よさ 息づくまち 川西」の右下にいるイラストのセリフ「愛着が持てる街

は、若い人が出ていっても戻ってくるよね」については、主語が何か分かりづらいと感じました。

●会長

文字サイズの問題や、家族イラストの多様性についての工夫。また、「4つの基本姿勢」と「5つの柱」をどうすればうまく繋げるか。この辺りが課題かなと思います。

●片山委員

色遣いも含めて全体的にやわらかい雰囲気なのでとても見やすいですが、確かに文字が小さいと感じました。

冒頭「最初のほうだけでも読んでみて」は、「どうせ、みんな読めへんやん」といういじけた印象を受けるので、私はいらなかなと思います。

最後気になったのが「都市デザイン」です。全体を眺めたときに、このページだけ統一感がない気がします。

●会長

文字のサイズや色やなど、読みやすいデザインについては工夫の余地がありそうです。

「都市デザイン」は「都市計画マスタープラン」に基づいておられますが、トーンが少し違うため、どのようにするかまたご検討ください。川西市の土地利用について計画的な観点で触れるほうがいいかもしれません。

●松浦委員

「最初のほうだけでも読んでみて」について、個人的にはかなり良いなと思っています。総合計画もそうですが、行政文書はどうしても分厚く、ページ数だけ見て閉じてしまう方が多いそうです。ですので、読むきっかけづくりとして、この言葉にはとても意味があるなと思いました。ただ、「最初」というのが何ページまでを指すのかが気になりました。

また、同じページの「ソフト面やハード面」という説明文ですが、一般市民にも伝わりやすい表現に置き換えてはどうかと思います。

最後は「私たちが大切にしたい思い - 4つの基本姿勢 -」の2つ目、「人に寄り添い、お互いの個性を認め合います」についてです。これだけ、他の3つに比べて全体にかかっていないというか、局所的な内容に思われました。例えば、後で出てくる「人権・ジェンダー平等、多文化共生」という施策の説明としてはぴったりだと思うんですが、「4つの基本姿勢」として並べると、少し違和感を感じました。

●会長

まず、事務局として「最初のほうだけ読んでみて」というのは何ページぐらいを想定していますか。

●事務局

具体的なページ数はあえて決めておりません。あくまで、少しでも読み進めてもらうための仕掛けとして考案したものです。

●会長

事務局としては、具体的に何ページというよりも、関心を持って読んで読み進んでもらえれば、というお気持ちのようです。「ソフト面、ハード面」の言い換えについては事務局で少しご検討ください。

4つの基本姿勢の1つ「人に寄り添い、お互いに個性を認め合います。」については、ダイバーシティの考えに沿っていくと、私たちみんながあらゆる場面にわたって考えなければならない、という視点になります。表現の仕方も含めて、他の皆さまからもご意見いただければと思います。

●神谷委員

イラストが、全体的に30～40歳代が多い印象を受けました。特に「心地よさ 息づくまち 川西」は、子育て世代が主人公になりすぎている気がしたのと、福祉の観点で見たときに、車椅子の人などがもう少しいてもいいのではと思いました。

●会長

子どもたちのための計画ではあることは間違いないのですが、あらゆる世代を越えて、まさにダイバーシティというのが伝わる絵になると一番良いのですが、ただあまり載せすぎるとごちゃごちゃするし、難しいところですね。

●上村委員

総合計画の見せ方として、かなり特徴を持ったものになっている点を評価したいと思います。そもそも総合計画自体、他の自治体を含めて非常にわかりにくいものなんですよ。ただ、普通の人とは他市の計画を読み比べることはありませんので、皆さんから出てきた意見はとても重要だと思います。

見せ方の工夫で面白い総合計画だと言われているのは福岡県の水巻町で、絵本になっています。そういう形で、親しみやすい見せ方を工夫する自治体もありますが、ほとんどの総合計画はわかりにくく書かれており、おそらくはほとんど読まれない。ですので、読みやすさについてチャレンジされている点は評価できると思います。

ただ、「構造がわかりにくい」という指摘は私も同意です。要するに、「現状があって、未来予想をして、それに向かってジブンゴトとして頑張ろう」という構造について、体系図が出てくるまで伝わりづらい面があります。

また、これは概要版・全体版どちらなのかと、これが冊子になった際の市の考えるターゲット層をお聞きしたいです。

●事務局

こちらについて、概要版という考えはありません。例えば人口推計やその他の詳細な資料に

つきましては、この後に「資料編」という形でお示しする予定です。

ターゲットは誰か、という点ですが、策定にあたっては今回子どもを中心に考えていますので、子育て世帯の方を含め、色々な方からご意見をいただいております。ただ、完成した計画をお見せする段階では、特定のターゲットに絞ることは考えておりません。

併せて、今回の総合計画は大分ボリュームや記載をスリムにし、代わりに、それぞれの施策・小施策には「個別計画」を紐付けています。ですので、具体的なところ、例えば「子育て」であればそれに対応した別の計画がありますので、そちらも併せて広い意味で総合計画とするようなパッケージを考えています。

●会長

事務局としては、概要版というよりはむしろこれが本編で、詳細な説明については資料編という形で追加されるイメージのようです。

●西中委員

「私たちが大切にしたい思い - 4つの基本姿勢 -」までは違和感なく読めましたが、その次「まちのミライを支える5つの柱 - 分野別の目標 -」に移った時に、それぞれの目標がどんな政策に結びつくかがイメージできなかったのが、最初のほうに体系図で説明するとその辺がわかりやすくなるかなと。ただ、「4つの基本姿勢」を強く押し出したいのであれば、また違う見せ方がいいのかなと思いました。

●会長

前々から議論にはなっているのですが、特に「4つの基本姿勢」と「5つの柱」をどのように分かりやすく説明していくか。それから「都市デザイン」については都市マスの位置付けをどのようにするか。この2点は少し議論が必要かもしれません。

また、都市マスに代表されるような土地利用そのものは、ある意味ではまちづくりの基本的な方向性に関わってくるため、どこかの柱立ての一つに入る性質のものかもしれません。この位置付けについては、ページの配置も含めて事務局で検討いただければと思います。

●神谷委員

上村委員が言われたように、この総合計画の体系図が最初に来ると流れがつかみやすいですね。ただ、情報量が多く、これが最初に来ると全体の印象が重たくなってしまいうデメリットもあり、最後に持ってこられてるのだと思います。そこで、例えば「4つの基本姿勢」と「5つの柱」の間に体系図が入ってもいいのかなと。体系図自体は左から右に見ていく形だと思いますが、「めざす都市像」や「4つの基本姿勢」はこれまで読んできた情報として左側にあって、右側にある「5つの柱」はこの後読み進める情報として整理するのはどうでしょうか。

●会長

ぜひ、今のご意見も参考にしながらデザインを工夫いただければと思います。

●澁谷委員

「かわにしてこんなところ」が、少し大人目線というか固い表現に見えるので、例えばキセラの公園やドラゴン公園などを、子どもが遊んでいる様子も交えて加えることでやわらかい雰囲気になるのかなど。また、能勢電鉄についても川西市特有の電車として補足してはどうかと思いました。

●会長

地域資源の表現方法は難しいですね。今の資料では寺社仏閣や歴史に関わる場所、あるいは特産品がクローズアップされています。そこに、市民の日常に関わるような、地域の大切な環境というの散りばめてはどうかというご提案でした。

●山本委員

「かわにしてこんなところ」冒頭のテキストですが、「利便性」に誤字がありますので修正をお願いします。

デザインの話ばかりで恐縮ですが、色覚障害がある方だと、白抜きの字や逆に濃い色の背景に黒字が入っているものは見えづらいと思いますので、そのあたりも配慮をお願いします。

●会長

見え方には個人差があるため、「誰にとっても読みやすい」と言えるには難しい面もありますが、できるだけ配慮した配色、デザインをご検討ください。

そのほか、いかがでしょうか。とくにご発言がなければ、次の議事に移りたいと思います。

(「異議なし」の声あり)

それでは、続いて二点目の議事です。

「第6次川西市総合計画基本計画原案」について、事務局より説明をお願いします。

●事務局

- ・【資料2】第6次川西市総合計画 基本計画原案について
- ・【参考資料】基本計画冊子イメージ

これからご説明する内容は、先ほど【資料1】でご説明した「かわにしのミライを支える5つの柱(分野別の目標)」のいずれかに分類されるもので、5つの柱を実現するための施策の方向性を、体系的に示すものです。

なお、【参考資料】は基本計画を実際の冊子としてお見せする際のイメージです。例として、分野別の目標01「人が豊かに育つ川西の実現」に紐づく施策1【子ども・子育て】のテキストを当てはめています。また、その下には小施策1【妊娠・出産・乳幼児支援】から小施策4【若者支援】が続きます。

実際の冊子には、基本的に小施策単位で記載する予定です。具体的な項目は①小施策の概要②市民とともにめざす未来像③施策を代表する指標④関連する主な計画 です。アウトプット

イメージは【参考資料】をご覧ください。

(参考) 基本計画で記載する項目と内容

①小施策の概要	8年間で取り組む方向性を140字程度で記載。
②市民とともにめざす未来像	計画の実行により、8年後の市民生活がどのように変化しているかを完結に記載。
③施策を代表する指標	②の実現に向けて、その進捗を測る指標を2つ程度設定。
④関連する主な計画	各小施策に関連する個別計画等を記載。

本日は、全ての小施策を一覧でお示ししている【資料2】に沿ってご議論をお願いします。説明は以上です。

●神谷委員

参考資料について、市民が興味を持ちやすい工夫が見られて良いなと思います。「関連する計画」については、市民からすると自分でその計画を検索するかというと難しい気もするので、例えば詳しく聞きたいときの担当部署などが分かる仕組みだと、よりユーザビリティの高い冊子になるのかなと思いました。

・小施策23【公共交通】

概要の「モビリティマネジメント」は、注釈がないと分かりづらいと思います。

●会長

小施策の概要については、一文が長いなど伝わりづらい文章も結構あるので、ここは要注意かと思います。

●山本委員

・小施策3【教育保育】

教育の質という意味では、教師の数の確保や働く環境も直結してくると思うので、そういった文言が入っていると、保護者としては安心だなと思います。

●会長

「教師の労働環境や数をどうするか」については、教育の分野に関連している個別計画などで実際に触れていなければ、ここで付け加えることは難しいかもしれません。

ただ、総合計画というのは最上位の計画です。他の個別計画は、この計画に従って策定・改正することが基本になりますので、本日はそういう視点に立って遠慮せずご発言ください。

●上村委員

最終年度の目標値が、「市民とともにめざす未来像」を実現するものとして相応しいか。このチェックも、我々の仕事になるかと思います。

●会長

重要なお発言をいただきました。皆さん方もぜひそういう視点でご覧ください。

●片山委員

「調整中」の部分は、近々固まってくるということですか。

●事務局

その通りでございます。どのような指標を置くかは定めたのですが、目標値については検討中のものがあります。

●松浦委員

・小施策31【ICT推進】

指標「行政手続きのオンライン化」について、国が定める59の手続きのうち49手続きを完了するという目標値が90%になっていますが、「国がやれと言っているもの以外はやりませんよ」と映り、失礼ながらあまり意欲的ではない指標に見えました。

例えば教育の分野では、学びの内容にGIGAスクール構想でタブレットを使って教育改革をするということも当然含まれるだろうと思います。公共交通についても、他市では免許返納した人が、スマホのアプリを使って乗り合いタクシーのようなもので病院に通う事例もあります。

ICTを活用してこの総合計画や各施策を進める、という視点に立つと、この指標は見せ方で損しています。近年は、ICT活用自体が一つ的手段として当たり前になってきているので、「川西市がICTでどんなまちづくりをするか」が見えやすくなると良いと思います。

●会長

ICTやDXについて、本来は全てのサービスに大きく関わる分野です。その中で、具体的な施策あるいは個別計画にどのように位置付けていくのか。特に影響の大きい分野については、積極的に入れていく必要があるのではないか、というご意見でした。ここは国の掲げるデジタル田園都市国家構想にも深く関わる場所なので、事務局でもご検討をお願いします。

●神谷委員

・小施策18【障害福祉】

指標「障がい者福祉施設から一般就労した人数」は、ここに関連する個別計画で扱っている指標の一つだと思います。これは全ての小施策に言えることかもしれませんが、そういった中から達成見込みが高いものを抜粋しているケースもあるのかなと。

知らない人を見ると、ここの達成率がさも計画全体の進捗と直結しているように見えてしまう。総合計画で全ての指標や数字を見せるわけではないので、その点では印象的なものを選べばいいとは思いますが、単に各課が一番自信のあるものをまとめてしまうと、市長が本当に見せたいものとばらける可能性があると思いました。

●会長

指標の選び方については市長のお考えもあるでしょうが、同時にそれが本当に最適かどうかは、まだ議論の余地があります。私たちもしっかり意見を出して、その中から良いものを選んでいければと思っていますので、委員の皆さんからも最適な目標の在り方や目標値についてご提案をお願いします。

●片山委員

・小施策24【公園】

指標「公園を満足して利用している市民の割合」の目標値が22.0%。キセラのようにお金をかける公園ばかりではなくても、日々のメンテナンスに力を入れるなどして、目標値をもう少し高く設定してはどうでしょうか。

●会長

公園は使う人がどうしても限定されるし、その人たちが満足しているかとなると、さらに限定されることになろうかと思えます。そうすると、目標値がつい控えめになってしまうかもしれません。このあたりはまた事務局でもご検討ください。

●澁谷委員

・小施策1【妊娠・出産・乳幼児支援】

子どもたちが人生最良のスタートを切れるように、という意味では、指標「妊娠から出産及び産後の保健・医療サービスについて満足している母親の割合」の達成目標は100%でもいいのではないかと思います。

●会長

数値目標として、この計画の最終年度には100%に達していてもいいんじゃないか、というご提案でした。この場合、達していないときの考え方がPDCAの悩ましいところでもあります。

何をどこまで具体化できるか、実現できるかということも踏まえつつ設定するのが基本ですが、目標値を決めていかなければ、それに向けての努力も始まりません。高い目標であっても、それを掲げることの意味は大きいかもしれませんので、ここはまたご議論いただければと思います。

●上村委員

仕事上、こういう行政の指標に関して、皆さんの苦勞はとともよく分かります。先ほど議論されたように、「小施策を表現できる指標になっているか」については相当苦勞されていると思います。基本的には、めざす都市像から下ろしていく、というの総合計画での考え方なので、ビジョンを達成できる指標を選ぶところが重要なスタンスだと思います。

ただ、実際にデータとして取得できるかどうかは別問題で、更に指標には「客観的指標」「主観的指標」があります。アンケート類に代表される主観的指標は、データがぶれやすい。

そういう背景もあって、アンケートは極力採用したくないお考えかもしれませんが、中にはアンケートでしか測れないようなケースも出てきます。

それと、目標値についてあまりに高すぎる、あるいは低すぎる数値を設定してしまうと、現場の職員がやる気を失う危険性もあります。ですので、目標値の設定は非常に難しいです。

ここからは提案です。計画の前半で、市は「まちづくりをジブンゴトにしていく」という方針を謳っていました。そこから、この指標は行政だけではなく、市民も協働で改善していくんだというメッセージを、冊子の中に加えていく必要があるのではないかと思います。そういう意味で、「関連する主な計画」を記載する代わりに、目標達成のために行政と市民が協働で取り組むための具体的な方法などを書いて、「みんなで達成するんだ」というメッセージを伝えるかどうかと思いました。

●会長

指標は未来像を実現するための目標にしなければ意味がない、と言えますが、何を設定するかは非常に難しいですね。それから、「客観的指標」「主観的指標」のお話がありましたが、客観的な指標が設定できないケースもたくさんあるため、そのバランスをどう考えていくのかも課題です。主観的な指標が出てくるところには、できるだけ客観的な指標もあわせて並べる、というような工夫も考えられますので、ご検討をお願いします。

また、「ジブンゴト」として取り組むという点で、貴重なご意見をいただきました。基本計画はどうしても行政の取組みが中心になりがちですが、総合計画そのものは市民と一緒に実現していくものですので、市民の取組みが出てきてもよいのではないかと、という内容でした。

他の自治体では、施策のレベルで行政や市民、事業者や団体の役割について示している例もあるようです。ただ、それが適切かどうかは様々なご意見があるかと思います。

●山本委員

- ・小施策9【商工振興】
- ・小施策11【雇用就労・働く場の創出】

私は「川西市産業ビジョン」にも関わりがあるのですが、そちらの審議会では市長マニフェストも見ながら動いています。そこで、マニフェストの「かわにしビジネス交流スクール（仮称）を開校します」という部分は、総合計画あるいは総合戦略のどの分野に位置づけられるかお聞きしたいです。

●市長

基本的には産業ビジョンの審議会をお願いすることになるので、詳細部分をご容赦ください。

川西のまちの成り立ちとしては、やはりビジネスマンに支えられてきた背景があります。大阪で活躍している方も大勢おられるので、例えば、そういった方と地元の商工業者の皆さんが学び合う場をつくる。それをきっかけに、ご自分の仕事のチャンスや収入を増やせるような、特徴的な取組みとしてチャレンジをしたいなど。その具体化については産業ビジョンで各委員にご協力いただきたいなと思います。

小施策の分類について言えば、やはり【商工振興】か【雇用就労・働く場の創出】というところですが、本市の今の労働施策は、どちらかというとなら就労に困っている方のサポート的な面が強いので、【商工振興】に近いイメージを持っています。

●会長

詳しいところは山本委員ご参加の産業ビジョンづくりのほうに期待したいと思いますが、総合計画のほうでも、既存の商工業の事業興しというよりは、様々な産業に携わる人やそうしたビジネスに関心を持つ人たちが、互いに刺激し学び合って自身の事業を発展をさせたり、また新しい事業を起こしていったりというような可能性が、この総合計画の中でも表現されるとより望ましいかもしれません。

●神谷委員

神谷委員の「なぜ目標値が100%ではないのか」というご発言や、上村委員の「行政ができることの他に、市民ができることを示して、一緒に100%をめざしましょう」というご発言を受けてですが、この40程度の指標を、ただ行政に任せるのではなくて「一緒にやりましょう」というメッセージがあると、参画しやすい雰囲気が出るのではないかと思います。

●会長

その他、ご意見ありますか。とくになければ本日の議論を終了したいと思います。

(「異議なし」の声あり)

本日は、基本計画の各項目を網羅しきれませんでした。全体の枠組みについてご議論いただきました。特に、概要の表記や指標、数値目標の設定の仕方について様々なご意見をいただきましたので、事務局でご検討をお願いします。

また、官民が連携をして都市像を実現していこうとする姿勢や、それがあって各目標を100%達成できるんだ、というメッセージが基本計画の施策レベルでも示せると、より市民の計画らしくなるという主旨のご意見もいただきました。もちろん、全ての項目について詳細に書き込むのは難しいですから、そこは個別の計画に委ねるとしても、総合計画として一定の方向づけは必要になるかと思うので、ご検討ください。

なお、各小施策についてご意見いただいた部分についても、次回までに事務局でご検討いただき、より良い案に組み替えてください。

議事は以上とし、事務局にお返しします。

●事務局

次回、第2回審議会は7月6日(木)18時開始の予定です。本日ご議論いただいた内容については、概要を新川会長にご確認いただいた上で、引き続き次回の審議資料といたします。

議事録については皆様にもご確認いただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

●市長

本日も非常に活発なご議論をいただき、ありがとうございます。

特に前半でご指摘いただいたイラストの件。「ジブンイロ叶う未来へ」と謳いながら、その種類が少ない、というのはまさにその通りです。一方で、全てを表現しきることはできない中、たくさん描くことで、かえって一部の方に「私たちのことは見てくれないんだ」と捉えられかねないので、大変ではありますが調整したいと思います。

もう1つ、数値目標は、我々もずっと議論し悩んできました。行政はどうしても、今やっている施策をベースに積み上げて、ボトムアップ型のプランを立てがちです。「数値目標」ありきではなく、市民とともにめざす未来像を表す数字は何が相応しいのか。例えば、子育て環境に満足している人たちが何%以上いれば、十分と言えるのか。その部分を、再度しっかりと調整していきます。

ただ、「子育てしやすいまちとを感じるか」という問いだと、市だけではある意味限界があるし、一方で、「待機児童数」のように市の施策で完結するものもある。そこをもう少し整理した上で、次回皆さまに再度後議論いただければと思います。

最後までどうぞよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

●事務局

以上をもちまして、令和5年度第1回総合計画審議会を終了します。ありがとうございました。